謹賀新年

年頭の御挨拶

門真市議会議長
内海　武寿

新年あけましておめでとうございます。市民の皆様方には、令和２年の新春をつつがなくお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。旧年中は、本市議会に温かい御理解と御支援を賜り、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、日本各地で台風や集中豪雨により、甚大な被害が生じ、自然災害の恐ろしさを痛感するとともに、改めて市民の皆様の安全・安心な暮らしを守るための防災・減災対策の重要性を再認識いたしました。

本市におきましては、昨年４月に市議会議員の改選があり、新体制のもと、今後、ますます議会の質や政策形成能力など、スキルの向上に努めることが必要になると存じます。本市行政の逼迫する財政状況の中、議員一人ひとりがその役割と責任を果たせるよう研鑽を積み、より一層議会審議の充実と活性化に努めて、市民生活の向上と更なる市政の発展に尽くしてまいりたいと考えておりますので、本年も変わらぬ御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとって幸多きすばらしい一年となりますように心からお祈りし、年頭の御挨拶といたします。

門真市長
宮本　一孝

新年あけましておめでとうございます。皆様には、新春を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、平成から令和へと新時代の幕が開ける節目の年でありました。また、６月にはG20大阪サミットが開催されました。大阪・関西の魅力が世界中に発信され、今後、2025年大阪・関西万博に向け、機運の高まりが期待されます。

本市におきましては、国に先立ち、幼児教育・保育の無償化を昨年４月から３歳児まで前倒しで拡充したほか、妊娠期から子育て期のワンストップ相談拠点「ひよこテラス」をスタートさせるなど、子どもを真ん中においた施策の充実に取り組みました。

本年は、新たなまちづくりの指針となる「門真市第６次総合計画」をスタートさせる年となります。引き続き、子どもを真ん中に地域の皆様がつながるまちを目指し、「人情味あふれる！笑いのたえないまち　門真」を今後10年間の「まちの将来像」と定め、市民の皆様方と一緒に、新たな時代のまちづくりを推進してまいります。

結びに、本年が門真の皆様にとって笑いのたえない一年となりますよう祈念し、新年の御挨拶といたします。

NEWS

認知症の方が輝ける場を創出！

門真の市民団体が厚生労働大臣最優秀賞などを受賞

介護サービス事業者や社会福祉協議会などが平成30年４月に発足させた「ゆめ伴（ともプロジェクトin門真実行委員会」が、全国トップとなる厚生労働大臣（もりやすみ）最優秀賞など３つの賞を受賞しました。総合プロデューサーの森安美さんにお話を伺いました。

きっかけは家族の声

―「ゆめ伴」発足のきっかけは何だったんでしょうか？

「認知症のお母さんに、以前のようにキラキラ輝いてほしい。できることもやりたいこともまだまだあるはず！」という娘さんからの声でした。認知症の方が街の中で輝ける場を創る必要があると周囲に訴えたら、たくさんの方が共感してくれて発足に至りました。

―地域の方や企業など、協力者の多さに驚きました

「認知症の方を助けてください」ではなく「認知症の方が輝くために応援してほしいです」と伝えると、皆さん快く協力してくださいました。実行委員会にも色々な団体が入っているので、どんどん輪が広がっていきました。

―どのような活動をされていますか？

市民の皆さんと認知症の方が一緒に街を歩いたり走ったりする「RUN（ラン）伴（ともプラス）門真」や、一緒にスタッフとなる「ゆめ伴カフェ」などがあります。そのほかにも、「ゆめ伴コンサート」や綿花の栽培をする「ゆめ伴ファーム」があります。ファームで獲れた綿で糸を紡いで布を織り、タペストリーを作りました。たくさんの工程がありましたが、地域の方、認知症の方、近所の園児たちそれぞれができるところに関わって、楽しみながら、みんなで作り上げました。

「私たちは運営しているだけで、活躍しているのは認知症の方です」と話す森さん

―活動が多彩ですね

「歩けないけど歌いたい」「カフェで接客するよりも畑作業がしたい」など、それぞれに輝ける場があります。バリエーション豊かにすることで、地域の方とつながる機会も増えます。

ゆめは2025年へ

―今後の展開を教えてください

府内全体に活動の場を広げたいです。また、2025年の大阪・関西万博で、認知症の方がスタッフとなり活躍する「認知症バリアフリーパビリオン」を創り、人と人とのつながりや地域の在り方を発信したいです。2025年問題が取り上げられる中、その年に大阪で万博が開催されるので、活動を表現するならここしかないって思っています。「認知症になっても輝ける！」って地域社会が気づいてくれたら嬉しいです。

―最後に、受賞のご感想を

社会が私たちの方向性に期待してくれていることが分かり、これでよかったんだと確信しつつ、認知症の方が輝ける場をもっと広げたいと感じました。認知症のご本人やご家族は、周囲に迷惑をかけてしまうからとネガティブになってしまいがちですが、「認知症でも楽しんで暮らせるんだ！」って希望を感じてほしいです。

「認知症の方に笑顔になってほしい。その想いひとつにたくさんの方がつながっています」と森さんは語っていました。認知症の方は「支援される人」ではなく、「メンバー」であり「仲間」であり「ともだち」だと、ある時から意識が変わったそうです。

活動内容や催しの告知は、ゆめ伴プロジェクトホームページで随時公開中です。今後の取り組みにも、ぜひご注目ください。

ゆめ伴プロジェクトin門真実行委員会の皆さん。「伴」の文字には、まち全体で「伴走」していこうという想いが

「ゆめ伴プロジェクト」活動に関する問合先　門真市社会福祉協議会（事務局）　☎06（6902）6453